

今秋、10万の想いを背負った龍が舞う!



みの〜れ10歳記念事業実行委員会
装飾部(折り鶴企画)メンバー

山西 利恵子 さん

「みの〜れ10歳を折り鶴というカタチでたくさんの方がお祝いしてくれてとても嬉しい」と語る山西さん。

みの〜れと共に生活するスタイル
Minole Life
のすすめ No.60

梅雨に入り、傘の似合う季節がやってきた。雨に濡れた紫陽花が輝きを増している。傘を差してのんびり散歩に出てみるのもいいですね。みの〜れでは10歳記念事業として、10万羽の折り鶴モニュメント制作が進められている。10月には10万羽の想いを背負った龍が皆さんの目に飛び込んでくるでしょう。今回はみの〜れ10歳記念事業実行委員会装飾部『折り鶴企画』メンバーである花野井地区にお住いの山西利恵子さんを取材する。

折り鶴で人の輪が広がった

山西さんは毎日、時間があればせっせと鶴を折っている。「まるで内職のようですよ(笑) 指先の運動程度にやっています」と話す。今年の3月初め、市内の小・中学校や公共施設などに折り紙を配った。「年度末で学校の先生方も忙しかったと思います。が、快く引き受けてくれました。子どもたちに願い事や名前を折り紙に書いてもらい、折り鶴となつて戻ってきました。その中には表側に名前が書いてあるものもあるので、名前が見えるようにウロコの台紙に貼り付けています。また、公共施設に置いていたものも多くの方が折ってくれました。さらに、みの〜れでは利用された方たちやみの〜れ支援隊の皆さんも足を運んでくれたときにたくさん折ってくれました。把握できないくらい皆さんの想いが詰まっています。」

と話してくれた。

龍のモニュメントは本体で8万羽、雲で2万羽の折り鶴が用いられる。黒、緑、赤の3色でウロコを作り、決められた大きさの台紙に両面テープで一羽ずつ折り鶴を張り付けていく。気が遠くなるような作業だ。龍の顔は発泡スチロールを削り、雲は白の折り鶴を糸で繋いでいくという。これもまた大変な作業。「全長18メートルの巨大な龍が完成するまでに皆さんの目に触れないようにどこに置いたらいいのかなど、まだまだ考えなくてはならないことが山ほどある。実行委員の皆さんは、それぞれ忙しいので全員が揃う時がなかなかない。まだまだ完成には時間がかかります。それでも力を合わせてがんばります」と話す。

山西さんの趣味はトールパイントとパンの花。どちらも習い始めて10年になる。「習っている年数は長いですが、上達していません。ながくのんびりと作品作りをしています。」と笑う。

みの〜れとの出会いは建設中に見学に来たとき。「あれからもう10年たったかなって感じます。『ときめき美の小径』を企画運営する『ときめき隊』などのみの〜れと関わったこと。今まで知らなかった世界と関わることができ、楽しみに変わってきました。30代の頃だったら忙しくて関わるのができなかったと思うけど、今この歳になり関わるのができて幸せです。みの〜れにはいろいろな展示物もありますし、自分では作れない作品を見ることができて、いいことばかりです。みの〜れ職員のみなさんも気さくな方たちばかりで来やすいところ。来やすいんだと思います」と話す。

鶴を折って下さった方はもちろんのこと、ギネスにも挑戦できるような巨大な折り鶴モニュメントが完成する日を私も心待ちにしています。皆さんと天を仰いで大きな歓声を上げる日を…